

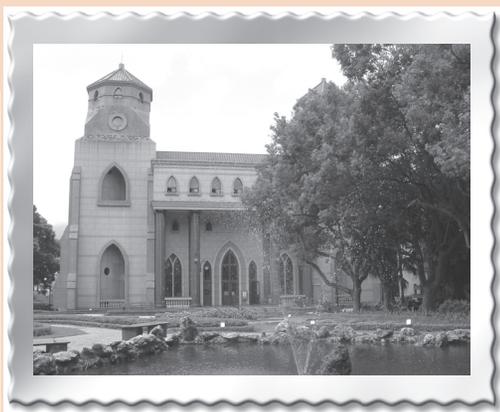
## 第1回・日台青年交流会議

本会青年部(早川友久部長)は、東大や慶応の大学生など13名が参加して「日台青年交流会議」と銘打ち、台湾・淡水にある真理大学①②日本語学科の学生などと交流をはかるべく初訪台した。

この交流のポイントは、日本の青年が台湾の青年と日本語でコミュニケーションをとることで言葉の壁を乗り越え、お互いの認識を深めるところにある。真理大学の学生たちとの討論会や、美しい日本語を守る活動を続けている友愛グループとの懇談③④も、もちろん日本語だ。

お陰で、同世代の素晴らしき「伴走者」に巡り会い、日本語世代の方々からは日台の友好を受け継ぐ「バトン」を受け取り、日台共栄の未来へ走り続ける決意を固める、またとない機会となった。

[本誌24頁参照]



①



②



③



④

8月22日

## 台湾音楽祭 フォルモサの夢

台湾から80人の交響楽団と100人の合唱団が来日し、「フォルモサの夢」と題する音楽会が東京・文京区の文京シビックホール・大ホールで開かれた。当日は、台湾でもっとも高い評価を受けている作曲家で「台湾のショパン」と呼ばれる蕭泰然氏④も来日し、冒頭、許世楷駐日代表の挨拶①の中で、詩人で作詞家の李敏勇氏、今回の総監督の盧孝治氏とともに紹介された。

蕭泰然作曲、李敏勇作詞の「玉山頌」という合唱曲で幕を開けた音楽会は、ソプラノの何康婷さんやバリトンの巫白玉璽氏などの独唱②も交え、1,000人もの聴衆を最初から最後まで魅了した③。留日台湾同郷会などが主催し、台湾の駐日代表処が後援、本会も協賛した。 [写真提供：台湾新聞社]



①



③



②



④